英国の外食・ホスピタリティ企業、10月売上高は横ばい 5カ月連続の成長に終止符

バーの売上高は3.1%減と落ち込み、業界のクリスマス需要への依存が高まった

2026年11月18日（水）



英国のパブ、バー、レストラン運営企業の10月売上高は横ばいとなり、既存店ベースで5カ月続いた成長が止まった。年末の業績を押し上げるには、クリスマス商戦への依存をさらに強めることになった。

11月18日（水）、NIQ RSM Hospitality Business Trackerは、運営型ホスピタリティ企業122社の既存店売上高が2025年10月と同水準だったと発表した。NielsenIQとRSMによる月次調査によると、前年同月比2.7%増だった9月から大きく減速した。

この結果は、新規出店の影響を除いて既存店舗の営業状況を測るため、ホスピタリティ事業者にとっ

て重要だ。売上高が横ばいだったことは、業界がパブ、バー、レストランにとって重要な時期に入るなか、消費者が裁量的支出を抑えたことを示唆している。こうした業態は、年間利益を支えるため、11月と12月の需要に頼ることが多い。

NIQとRSMは、クリスマスを前に消費者が慎重な姿勢を示したことが市場の重しになったと述べた。同トラッカーは、月内の取引を鈍らせた要因として嵐も挙げた。こうした要因が重なり、晩春から夏にかけて続いていた小幅な回復に歯止めがかかった。

10月に最も低調だったのはバー部門だった。同トラッカーによると、同部門の既存店売上高は前年同月比3.1%減となった。報告書とともに公表された情報には、パブとレストランの10月の比較可能な数値は示されていなかった。

それでも、市場全体が一様に悪化したわけではない。新規出店の寄与を含む122社の総売上高は、10月に前年同月比3.7%増加した。既存店舗で成長が見られなくても、事業規模の大きい企業では店舗拡大が増収を後押ししていることがうかがえる。

ホスピタリティ事業者にとって、既存店売上高が横ばいの一方で総売上高が増加したことは、よくある課題を浮き彫りにしている。新規出店によって売上高全体を伸ばすことはできるが、既存店舗の営業が低調だと、運営コストの上昇を吸収しにくくなる。NIQの発表に添えられたモニターの概要によると、10月の結果を受け、こうしたコスト圧力を相殺するうえで、業界はクリスマス商戦への依存を強めることになった。

同トラッカーの10月の数値は、外食や飲酒に対する消費者の選別的な姿勢が続いていることを示す材料となった。9月に改善した後、勢いが急に失われたことから、年末の時期が近づき、その他の季節的支出も増えるなかで、家計が引き続き支出を慎重に管理していることがうかがえる。

NIQ RSMのトラッカーは運営型企業を対象としているため、ホスピタリティ市場全体ではなく、大手事業者の動向を示すものだ。それでも、需要の動向、店舗拡大、消費者信頼感とコストインフレのバランスを測る指標として、月次の数値は業界で広く注目されている。10月の横ばいを受け、業界は確かな基調成長という下支えを欠いたまま、最繁忙期を迎えることになった。